



SOMPOひまわり生命保険 金融機関推進部

保険ならだけではの注意すべき 説明事項を押さえてよう

生命保険の提案において、お客様に理解してもらわなければならぬポイントと理解してもらうための説明方法を見ていく。

あ

る程度までニーズ喚起や商品提案が進んだ段階で、金融機関の担当者がお客様に商品説明する際の注意点を述べていこう。

生命保険には、どの商品であってもメリットやデメリットがある。ただし、商品提案の段階では、お客様の問題に対する解決策として商品説明を行うことになるため、知らず知らずのうちにメリット中心の説明になりがちである。その結果、商品の基本的な仕組みやデメリット等につ

ては説明が形式的になりやすい。お客様の中で印象に残らず、都合の良い形で記憶されたり、説明されたこと自体忘れられたりする。

貯蓄型の保険は早期解約に注意

では、お客様に生命保険の基本的な仕組みやデメリットについて、正しく理解してもらうための説明の仕方を考えてみよう。

①掛捨て型か貯蓄型かの説明

まず生命保険商品は掛け捨て型と貯蓄型に分類できる。そのため、提案している生命保険商品がどちらに属しているのかお客様に認識してもらうことが重要である。

掛け捨て型の代表としては医療保険と定期保険が挙げられる。掛け捨てという言葉のとおり、入院や死亡などの支払事由が発生しない限り、保険金は支払われない。掛け捨て型は、少ない保険料で大きな保障を得られることがメリットの1つである

が、原則として解約返戻金や満期保険金を受け取ることができない商品が大半である。掛け捨て型のデメリットの1つとしてお客様に明確に伝え、理解してもらおう。

次に、貯蓄型について見てみよう。貯蓄型は主に、終身保険と養老保険、年金保険がある。養老保険と年金保険は原則、払込保険料以上に満期金や年金を受け取ることができ。ただし、早期に解約した場合には、払込保険料を下回るケースがある。特に、払

保険であってもリスクが大きい商品も

②外貨建て保険・変額保険の説明

込期間中の解約返戻金が少なくなる低解約返戻金型の商品をお客様に提案する際には、注意が必要である。なお、終身保険は満期の概念が存在しないので、満期金を受け取ることができない。終身保険の解約返戻金については養老保険や年金保険と同様の考え方となる。

銀行窓販でも取扱が多い一時払いの外貨建て保険・変額保険についても触れておこう。外貨建て保険は、海外の高い金利で運用するため、外貨ベースでは資産を増やすことができる。一方で、満期時の為替レートによっては、想定外の損失を被るケースがあることも事実だ。

具体的には、満期時の為替が契約時よりも大きく円高に振れていると為替差損が発生し、円ベースでは払込保険料を下回ることになる。円ベースで元本割れがないと誤認するお客様もいるため、為替の損益分岐点などを示しつつ、払込保険料を下回らない円相場水準などを示しながら明確に説明しよう。

変額保険は、解約返戻金および満期金額が運用次第で増減する。運用がうまくいかなければ払込保険料を大きく下回る可能性もある。変額保険は保険ではあるものの、株式や債券等で運用している投資性の高い商品で価格変動リスクを伴う商品であることを十分に伝えるべきである。

③免責事由の説明

生命保険商品には、保険金や給付金の支払事由に該当してもそれらを受け取れない、免責事由が必ず設けられている。生命保険商品をお客様に気に入ってもらい契約してもらっても、免責事由に該当して保険金や給付金が支払われない事態に陥ると、トラブルに発展する可能性もある。

死亡保険金の主な免責事由は図表のとおりだ。これらの

●死亡保険金の免責事由（例）

- ⑦契約した保険の責任開始期（日）または復活日から一定期間内に被保険者が自殺したとき
- ⑧契約者または死亡保険金の受取人の死亡が故意であるとき
- ⑨戦争その他の変乱によるとき。ただし、その程度によっては、保険金の全額または一部を受け取れる場合がある



(出所) 筆者作成

免責事由は発生時点において、保険募集人となる金融機関の担当者が直接関与することができない事柄である。

一方で、図表には挙げられていない免責事由の1つに「告知義務違反」がある。これは担当者が保険募集時にしっかりと関与すれば、防ぐことができ